

**2025年度  
博士課程後期課程 研究指導分野および担当者  
Doctoral Program Research Supervision**

研究指導分野 Field of Study	担当者 Instructor	研究指導概要 Research topics
工業経営論	(※1)(※2) 秋野 晶二 AKINO Shoji	
マーケティング論	有馬 賢治 ARIMA Kenji (2025年度秋/2026年度春研究休暇)	マーケティング戦略, マーケティング・マネジメント, 消費者行動, ブランド論, マーケティング・コミュニケーションなど, マーケティングの基礎から応用に関わる分野を論理的に思考でき, 理論研究, 実証分析などの方法の習得により, 総合的なマーケティングの理解から専門性を深める研究指導を行う。
ファイナンス	千野 厚 CHINO Atsushi	ファイナンスの分野における実証研究を行う。より具体的には, 企業の財務政策や企業の株価収益率等に関する統計的分析を行う。実証研究を始めるにあたっては, まず研究テーマを特定した後に検証する仮説を構築し, 次に仮説を検証するための統計モデルを定式化し, 最後に必要なデータを入手して仮説検定を行う。各自の研究テーマは, メディアの記事や学術文献の購読, 教員とのディスカッション等を通じて特定していく。
メディア研究, ゲーム研究, ファン文化 media studies, game studies, fan culture	Douglas Schules	Research in the areas of communication studies, media studies. Specific focus on how fan culture has influenced creative media ecologies such as the (indie) game industry. Discussions will be in English.
応用言語学, 教育心理学 Applied Linguistics, Education psychology	Gene Thompson	Research in the fields of Applied Linguistics, Education psychology, and cognition about language learning. Specific interest in teacher and learner efficacy, English Medium Instruction (EMI) and preparation for EMI, including content and language integrated learning (CLIL).
管理会計・マネジメント・コントロール・サステナビリティ	細田 雅洋 HOSODA Masahiro	サステナビリティや非財務情報の開示とマネジメント・コントロール・システムとの関係に関わる質的研究を行っている。この他, サステナビリティに関わる課題であるジェンダー平等や従業員のウェルビーイングと企業の責任や戦略に関わる質的研究にも取り組んでいる。実社会で起きている課題と研究動向を関連付けながら, 各自が関心のある研究課題についてリサーチクエストを立てる。そのうえで, インタビュー調査等を通じてデータを収集し, データの分析結果と考察にもとづき, リサーチクエストに対する結論を導く。
組織行動論 (組織心理学), リーダーシップ論, 人材マネジメント	石川 淳 ISHIKAWA Jun	組織行動論 (組織心理学) については, リーダーシップ, モチベーション, コミュニケーション, チーム等に関わる海外の先端研究をレビューする。また, 人材マネジメント (人的資源管理論) については, 雇用, 賃金・評価, 人材育成等に関わる国内の基礎的な理論および国内外の先端研究をレビューする。どちらについても, 最新の研究成果を踏まえた上でオリジナルなモデルを構築し, 実際の調査 (質問紙調査, インタビュー調査, 実験など) を通じて, 当該モデルの妥当性を検証する。
経営と社会, コーポレート・ガバナンス, 経営戦略論	村嶋 美穂 MURASHIMA Miho	企業の社会的役割とその影響を, 実証分析を通じて解明する。具体的には, 統計的手法を用いたデータ分析を通じて, 企業の社会的活動がもたらす経済的・社会的ベネフィットを明らかにする。学生は, このプロセスを通じて, 仮説の設定, データ収集, 分析方法の選定, 結果の考察といった研究手法を習得し, 自ら設定したテーマに関し深く理解することを目指す。
人材開発論, 組織開発論	中原 淳 NAKAHARA Jun (2025年度研究休暇)	企業・組織が, 自らの戦略・目的を達成するために, 従業員の学習を組織化・秩序化することを人材開発 (Human Resource Development) と呼ぶ。また, 組織が, 集団として機能するために必要な内的・外的介入を組織開発 (Organization Development) と呼ぶ。人材開発, 組織開発に関する基礎的文献・最先端の論文を購読し, ディスカッションを行うことをめざす。
知識創造理論 (イノベーション, 経営・組織戦略, リーダーシップ) Innovation, Management and Organizational Strategy, Leadership	廣瀬 文乃 HIROSE Ayano	知識が最も重要な経営資源であり, あらゆる経営の目的はより善い未来の実現にあるとの認識に立ち, 企業組織, 地域やコミュニティでの課題を設定し, 新たな知の創造によりイノベーションを起こし社会的・経済的価値を共創する社会, コミュニティ, 企業やNPO/NGO, 人や場のつながりやビジネスエコシステムなどに関する研究を行う。知識創造理論に基づいて, オープン&ソーシャル・イノベーション, 経営戦略や組織戦略, 場やビジネスエコシステム, ナラティブ, 実践知リーダーシップなどの観点から国内外の事例について質的な研究を行う。 Based on the recognition that knowledge is the most important management resource and that the purpose of any management is to realize a better future, we will identify issues in business organizations, regions, and communities, and conduct research on society, communities, companies, NPO/NGOs, people and places that innovate and co-create social and economic value through the creation of new knowledge. Based on knowledge creation theory, we will conduct qualitative research on domestic and international case studies from the perspectives of (but not limited to) open and social innovation, management and organizational strategies, places and business ecosystems, narratives, and wise leadership.

研究指導分野 Field of Study	担当者 Instructor	研究指導概要 Research topics
財務会計論, 国際会計論, 学際 的会計研究 Financial Accounting, International Accounting, Interdisciplinary Accounting Research	岡本 紀明 OKAMOTO Noriaki	会計に関する諸問題を学際的（例えば制度的・社会的・政治学的）観点から主に定性的に研究している。現在は、広い視点から企業の社会的インパクトをいかに測定するか探究している。 I have investigated institutional, social, and political aspects of accounting from various angles. My current research project is accounting for social impact. I welcome PhD students with innovative research proposal.
経営情報論, デジタル・トランス フォーメーション, マーケティング ・リサーチ	(※2) 佐々木 宏 SASAKI Hiroshi	経営情報論が専門で、「情報」をキーワードにしてデジタル・トランスフォーメーション(DX), ビッグデータ, IT 産業, Web社会, マーケティング・リサーチ, デジタルマーケティングなど, 経営学の視点から事業戦略, 組織, 組織間関係, システム, 人材などに関する研究を行っている。
企業の社会的責任 (CSR) 研究 Corporate Social Responsibility (CSR) Research	Scott T. Davis	Research in the fields of corporate social responsibility, social value creation, community and stakeholder relations, and traditional thought on business ethics in Japan. Specific interest in the theoretical conceptualization of the innovation of corporate-social relations through strategic change.
流通システム論	(※1) 高岡 美佳 TAKAOKA Mika (2025年度春研究休暇)	
スポーツファイナンス, スポーツ 経済学 Sports Finance, Sports Economics	竹澤 伸哉 TAKEZAWA Nobuya	Research in the area of sports finance and sports economics. Readings in the students area of interest as well as microeconomic theory, applied econometrics, and financial economics in order undertake rigorous empirical research in sports finance/sports economics. All discussion in English.
人的資源管理論 (人材マネジメン ト論)	田中 聡 TANAKA Satoshi	経営学の中でも組織・人材マネジメント論の立場から「人とチームのブレイクスルー」について探究していく。ブ レイクスルーとは「現状打破」や「革新」を意味し、企業経営だけでなく個人の成長やキャリアという観点からも 注目を集める概念である。特に2つのレベルのブレイクスルーに焦点を当てる。1つは「チーム」レベルで、チ ームの創造的なコミュニケーションやコラボレーションを促すための組織マネジメントについて研究する。もう1つ は「個人」レベルで、個人 (主にビジネスパーソン) の一皮むける成長や自律的なキャリアを促すための人材マネジメント論・キャリア論に ついて探究する。
リーダーシップ教育論, 人材開発 論	館野 泰一 TATENO Yoshikazu	企業における人材開発の中でも特に、リーダーシップ教育論を中心に扱う。リーダーシップという現象を明ら かにする研究だけでなく、「どのようにリーダーシップを発揮できる人材を育成するのか」という視点に立つ研究 について学ぶ。関連する文献の講読及び、ディスカッションをおこなうことで理解を深める。
スポーツマーケティング Sport Marketing	辻 洋右 TSUJI Yosuke	Research in the field of sport marketing from a consumer behavioral standpoint. Students will build knowledge and research skills through extensive literature review in marketing and related areas. All discussions will be conducted in English.
多変量解析, 統計計算	山口 和範 YAMAGUCHI Kazunori	統計的データ解析手法の開発や評価, 特に経営学分野において活用される統計手法についての研究を行う。具体的 には, 多変量解析やデータマイニング手法の改良・開発・評価, 及び, 欠測値などを含む不完全情報による統計的 推測の研究を行っている。また, 新たな統計教育についての研究プロジェクトを国際的連携のもと進めており, 統 計的思考力を重視した教材やカリキュラム開発を行っている。

[R Guide掲載「専任教員プロフィール」も参照すること](#)

(※1)の教員については、原則として指導教授として届け出ることができない。

(※2)の教員については、新規に指導教授として届け出ることができない。